

ふじのくにグローバル人材育成事業 報告書

参加した コース	ふじのくに地域探究コース (静岡と世界を繋ぐマイプロジェクトコース)		訪問国	オーストラリア	
学校名	知徳高校	氏名	戸塚富有	学年	2

中学生の時から留学に興味がありましたが留学は難しいだろうと考えていました。そんな中、高校の先生がトビタテ留学のパンフレットを見せてくれたのがきっかけです。自分で留学先や留学期間などを計画できるという新しさに惹かれ、応募を決めました。

幼い頃から茶道に慣れ親しんでいたこともあり、静岡のお茶をテーマに留学することを決めました。また現地校に通い現地の生徒と交流をすることにも興味がありオーストラリアの SNS 利用禁止法についても探ろうと決めました。

オーストラリアのゴールドコーストにあるリンディスファーン・アングリカン・グラマースクールに1か月通い、現地の生徒と同じ授業を受けながら学校生活を送りました。授業は生徒の発言や話し合いを重視するスタイルで、日本とは大きく異なり、最初は戸惑いを感じることもありました。次第に慣れ、前向きに楽しく学校生活を送ることができました。

また、先生と生徒の距離が近く、質問や意見を伝えやすい環境であったため、自分の考えを英語で伝える力を伸ばすことができました。校則も日本ほど厳しくなく、生徒一人ひとりの自主性が尊重されており、自分で考えて行動する姿勢の大切さを学びました。

さらに、多文化共生が進んだ学校であったため、さまざまな国籍の生徒と関わる機会が多くありました。日本の文化や静岡のお茶について紹介すると強い関心を持ってもらえ、自国の文化を発信することの意義を実感しました。他国の文化や価値観に触れることで、考え方の違いを身近に感じました。

これらの経験は、トビタテに挑戦し、実際に海外の学校で生活したからこそ得られたものだと感じています。

以下では、この経験をもとに取り組んだ活動1と活動2について報告します。



活動 1

16歳未満 SNS 利用禁止法について事前に調べた上でオーストラリアに渡航し、現地ではインタビューを通して調査を行いました。その結果、年齢層によって賛成・反対の意見が大きく異なることを実感しました。

現地の学生の多くは反対の立場で、犯罪を防げるというメリットは理解しているものの、時間制限やサイト制限などの機能を活用し、完全に禁止するのではなく工夫して利用すべきだという意見が多いと感じました。SNS のデメリットを理解した上で、適切に使うことが大切だという考えが印象的でした。

一方で、ホストマザーをはじめとする保護者の立場からは、利用禁止法に賛成する意見が多く聞かれました。SNS の危険性を理解し、慎重に利用することを子どもたちに教育していく必要があると教えていただきました。

このインタビュー活動を通して、学校で SNS に関する講座が開かれていることや、16歳未満が利用できる YouTube キッズ向けチャンネルが用意されていることなど、オーストラリアならではの工夫を知ることができました。この調査を通して、SNS は単に禁止するかどうかではなく、どのように付き合っていくかが重要だと考えるようになりました。現地の学生からは、SNS のデメリットを理解した上で工夫して利用したいという声が多く聞かれ、保護者からは教育の必要性を強く感じました。これらの経験から、日本においても若者が SNS と安全に向き合える社会をつくるために、どのような工夫や教育が必要なのかに興味を持つようになりました。

活動 2

私は、静岡のお茶や茶道の魅力を伝えるため、ホストファミリーや現地の友人に向けて茶道体験を行いました。想像していた以上に多くの人が日本の文化に興味を持ってくれたことがとても嬉しく、積極的に質問をしてくれる姿が印象的でした。渡航前は、茶道は現地ではあまり馴染みのない文化だと思っていました。しかし、オーストラリアでは「T2」という有名な紅茶ブランドやスーパーで静岡産の抹茶が販売されており、抹茶だけでなく茶道セットも現地で手に入ることを知り、大きな驚きを感じました。この活動を通して、オーストラリアでは抹茶が珍しいものではなく、日常の一部として親しまれていることに気づきました。一方で、現地で楽しまれている抹茶や茶道と、日本の本場の茶道には違いがあるとも感じました。今後は、より本来の茶道の魅力を伝えるために、どのような工夫ができるのかについて考えていきたいです。

また、この経験を通して自分の高校で報告会を開き、トビタテ制度や留学の魅力を伝えることができました。また、今回の報告会をもとに、より多くの生徒に留学やトビタテ制度を知ってもらうにはどうすればよいかを考え、今後の活動に活かしていきたいと思います。

